

事業所名	グループホーム まきびの丘 ※
日付	平成19年10月23日
評価機関名	特定非営利活動法人 高齢者・障害者生活支援センター
評価調査員	介護支援専門員・介護福祉士・認知症ケア専門士 訪問介護員・認知症ケア専門士
自主評価結果を見る	
評価項目の内容を見る	
事業者のコメントを見る (改善状況のコメントがあります) ※	

1. 評価結果の概要

<p>講評</p> <p>全体を通して（特に良いと思われる点など）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・静かで日当たりも良く、自然が体全体で感じられるような小高い丘陵地にホームは建っています。 ・職員に理念がいきわたっており、穏やかな時間の流れを感じることができました。 ・入居者中心の落ち着いたケアが実践されており、問題となることは職員全員で議論し対応されていました。 ・職員全員一丸となり、互いの足りない面を補いながら仕事に取り組んでいる姿は学ぶべきところだと思いました。 ・全員で力を合わせ目標に向かったケアができていました。 ・職員の個々の能力を上手く活かしながら、サービス提供が行なえている様子が窺えました。 ・スタッフ全員でサービス提供の質向上に取り組んでいる。想いをひとつにして、研修、自己研鑽、チーム会議等と取り組んでいる姿勢が窺えました。 ・研修の意義は得るものが大きいとの意見を出され、これから職員と共に勉強してよりよいサービスを提供したいとの気持ちをお持ちでした。 ・職員のさりげないしぐさや仕事振りが見られ本当に落ち着いたケアが実践されていました。スタッフ間の連携も良く、穏やかな時間の流れの中 入居者と職員がひとつの家族となり生活していました。 ・事故報告書の書式など、分かりやすい書式で工夫されていました <p>特に改善の余地があると思われる点 特にありません。</p>
--

2. 評価結果（詳細）

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有	○	
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
	<ul style="list-style-type: none"> ・一人では自立生活が困難な認知症高齢者の方々がお互いに助け合いながら共同生活を営む中で、リハビリテーション効果により生活能力や身体機能の維持向上を図り可能な限り自立生活していただくことを目指している。 		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り	○	
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり	○	
4	建物の外回りや空間の活用	○	
5	場所間違い等の防止策	○	
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
	<ul style="list-style-type: none"> ・共有できる場所を確保しそれぞれ好きなことに取り組んでいました。テーブルでおやつを用意をしたりテレビを見たりとみんなでひとつのことをするのはなく、個々に好きなことに取り組んでいました。 ・職員の行動が非常に落ち着いていました。その落ち着きが入居者の落ち着きに繋がっているように思いました。 		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映	○	
7	個別の記録	○	
8	確実な申し送り・情報伝達	○	
9	チームケアのための会議	○	
10	入居者一人ひとりの尊重	○	
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ	○	
12	入居者のペースの尊重	○	
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援	○	
14	一人ですることへの配慮	○	
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫	○	
16	食事を楽しむことのできる支援	○	
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援	○	

III ケアサービス（つづき）

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮	○	
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援	○	
20	プライドを大切にされた整容の支援	○	
21	安眠の支援	○	
22	金銭管理と買い物の支援	○	
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保	○	
24	身体機能の維持	○	
25	トラブルへの対応	○	
26	口腔内の清潔保持	○	
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応	○	
28	服薬の支援	○	
29	ホームに閉じこもらない生活の支援	○	
30	家族の訪問支援	○	
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の生活層に合わせた支援こそがグループホームの原点であり、その目標に職員が一体となって取り組んでいる。 ・利用者の残存能力を活かし、その人なりに評価し出来ることを生活の中で自然な形で取り組まれている。 ・わざとらしさがなく、職員と利用者がひとつ家のなかで暮らしているとゆうかんじがうかがえました。 ・利用者と職員が遠慮なく話をしていましたが、節度 礼儀のある態度で接していた。 ・あたたかさのある空間づくりに努力されている。 		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映	○	
32	災害対策	○	
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ	○	
34	家族への日常の様子に関する情報提供	○	
35	運営推進会議を活かした取組	○	
36	地域との連携と交流促進	○	
37	ホーム機能の地域への還元	○	
記述項目	サービスの質の向上に向け、現場から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か		
	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の質の向上に管理者を交え、スタッフ一同ケアサービスの質の向上に熱心に取り組んでいる様子が窺える。 ・職員と管理者との信頼関係が非常に良好である。 		